

災害に備えましょう

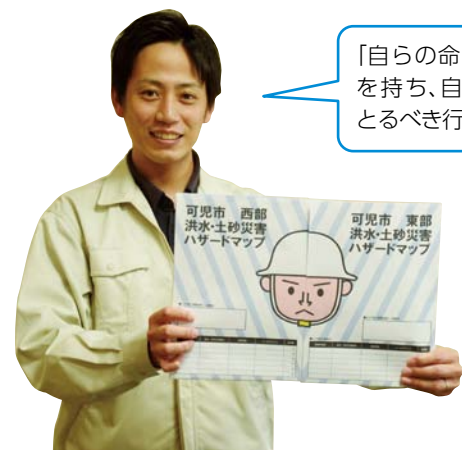
問合先 防災安全課

「今、災害が起きたらー」あなたは大丈夫ですか？
災害には、洪水や土砂災害など気象情報からある程度予測可能なものや、地震のように突然起こるものなどがありますが、いずれも「備える」ことで、避難時のリスクや避難生活の負担などを軽減することができます。今回は、皆さんの安全・安心のための「災害への備え」について考えます。

① ハザードマップで危険箇所を確認

市のハザードマップが新しくなりました

豪雨などによる洪水や土砂災害が発生した場合の被害想定と避難所を示しています。以前は洪水と土砂災害でハザードマップをそれぞれ作成していましたが、今回からその情報を1つにまとめました。



「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう

市のハザードマップは当広報紙に折り込んで配布される他、市役所・各地区センターなどで入手できます。

わが家のハザードマップ

地域住民が主体となり自治会ごとに作成するハザードマップです。市のハザードマップに記載がない身近な危険箇所や過去の災害(土砂崩れ、浸水)の記録が分かるので、避難経路の確認に役立ちます。
(131自治会中104自治会で作成済み)



③ 家族で話し合う

災害が起きた時の行動などあらかじめ家族内で確認しておきましょう。

地域の安全を確認

ハザードマップ(上記参照)などを基に、自宅はどういった場所にあるのか、避難先やその避難路は安全かなどを確認する。

避難時の同伴者

高齢者、子ども、障がい者など支援が必要な家族や隣人が誰と避難するか、連絡はどうか確認をする。

避難のタイミング

市が発令する情報を基にどのタイミングでどう行動するかを確認する。「すぐメール」や「FMらら」は可児市の情報がいち早く届きます。普段からさまざまな情報ツールを利用して、慣れしておきましょう。

すぐメールの登録はこちらから



FMららはラジオで聞ける他、FM+のアプリをダウンロードしてFMららを選択するとプッシュ通知も受けれます。



避難時の持ち物

非常時には両手が空くリュックがおすすです。非常持出品(4ページ参照)も要確認！

特に地震など突発的な災害に備えるには…

集合場所・時間は具体的に

「〇〇学校の鉄棒の前、朝9時または夕方5時」など詳しく決めておくことで待ち疲れや不安の軽減につながります。

連絡手段は複数もつ

NTT災害伝言ダイヤル171、携帯電話各社の災害用伝言板、SNS (Facebook、Twitter) など電話機能が使えなくなったことなどを想定して準備しておきましょう。

② 避難情報が変わりました

市は、大雨で川の水位が高くなったり山間部で土砂災害などの恐れが出たりする場合に、該当地域に避難情報を発令します。今年の5月20日から以下のようになっていますので、確認しておきましょう。



④ コロナ禍での避難先を考える

避難所

各避難所にパーテーションやアルコール消毒などを設け、感染対策を行った上で避難所が運営できるよう整備をしています。避難所を利用する際は「健康状態チェックカード」と「避難者カード兼人数確認票」を事前に記入しておきましょう。そうすることで避難所の受付に並ぶ“密”と待ち時間の解消につながります。



「健康状態チェックカード」と「避難者カード兼人数確認票」は市役所、各地区センター、市HPなどで入手できます。



避難所以外に避難できる分散避難先も検討

自宅

自宅の安全が確保できれば必ずしも避難所へ行く必要はありません。ローリングストックなどを活用し、生活するために必要な食料や日用品(非常備蓄品)を日頃から備えておきましょう(4ページ参照)。

親戚・友人宅

避難先としたい親戚・友人宅には、事前に連絡して避難の可否を確認しておきましょう。複数あるとより安心ですね。

ホテルなどの宿泊施設

台風や大雨などの場合は、ホテルや旅館など頑丈な建物で過ごすことも選択肢のひとつです。

車(車中泊)

数日程度の短期的な避難であれば車も選択肢のひとつです。ただし、エコノミークラス症候群の危険性もあるので、あまりおススメはできません。状況に応じて判断しましょう。

高校生防災士に学ぶ 災害の備え

その準備が未来の自分を救います！
できることから始めていきましょう。

荒尾 凌太 さん (中恵土在住、高校3年生)

可児が大好き！そんな思いから可児のために何かできることをと、中学3年の時に防災リーダー養成講座を受講。その後、防災士資格を取得しました。また、自治会の防災訓練で指導したり、第64回全国学芸サイエンスコンクールの作文/小論文部門高校生の部で「災害と共に歩む命」と題して書いた小論文が入選したりするなど積極的に活動しています。



非常持出品(リュックに入れて玄関付近へ)

以下は、風水害など一時避難(一晩分)の際に持ち出す主なものです。リュックは、できれば家族全員に一つずつ用意しましょう。地震なども想定すれば3日分が目安となりますが、実際に背負ってみて動ける重さか確認しておきましょう。



水と食料

水はペットボトル2本程度。調理しなくても食べられる食料。チョコレートやキャンディーなどがおすすめです。



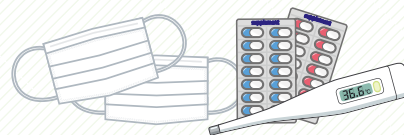
懐中電灯

災害時の避難路はいつもの道と風景が一変する可能性があります。夜は安全に避難するため足元を照らしましょう。



コロナ禍で一緒に準備したいもの

マスク、体温計、アルコール消毒液、常備薬、お薬手帳、ティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋、ハンドソープ、使い捨てのビニール手袋、上履き など



非常備蓄品の準備(家に置いておくもの)

ライフラインが寸断され、復旧するまでの数日間を支える備えです。一時避難後、あらためて取りに行けることを想定し、十分な量があるといいですね。

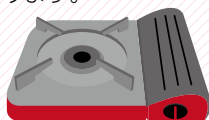
1週間分の水と食料

飲み水として、1人1日3ℓ必要です。食料は、ローリングストックで、普段から買い置きを多めにしておきましょう。



卓上コンロ

温かいものが食べられると、災害時などでは心の不安が軽くなります。



トイレ

断水でトイレが使えないこともあります。仮設トイレが設置される場合は3~7日かかるといわれています。携帯トイレ(1人1日5回分)などの準備は欠かせません。



その他の持出品や備蓄品は
市HPで確認できます



必要なものを全て準備！…が理想ですが、無理のないよう、続けていくことが一番大切です。ちなみに、備蓄するカップ麺には「そば」も入れておくといいですよ！水で戻すことができ、温かなくても意外とおいしく食べることができるんです。

是非やってほしい！ ローリングストック

①備える②日常で使う③買い足す

缶詰、レトルト・インスタント食品、加工品などは普段から多めに買い、使った分だけ新しいものを補充する方法です。備蓄した食料は何かどのくらいあるか、賞味期限は切れていないか、食べ方はどうかなど、普段の食事に取り入れ定期的に確認することで、災害時の食事で困ることが減り、日常に近い食生活を送ることができます。

